

答え合わせ・解説

問1	答え 1 埴輪	埴輪は、古墳の周囲や頂上に並べられた素焼きの土製品です。人、馬、家、盾などの形があり、当時の服装や道具、社会の様子を知る貴重な歴史資料となっています。祭祀の場に置かれたり、墓域を守る結界としての役割があったと考えられています。
問2	答え 2 貝塚	貝塚は単なるゴミ捨て場ではなく、当時の人々の食生活や自然環境を知るための重要な考古資料です。貝殻に含まれるカルシウム分のおかげで、骨や角といった有機物が腐敗せずに残りやすいという特徴があります。
問3	答え 4 三内丸山遺跡	この遺跡からは、500棟以上の竪穴住居跡や、大型の掘立柱建物跡、大量の土器や石器などが出土しました。これにより、縄文人が長期間にわたり、計画的で安定した定住生活を送っていたことが証明されました。
問4	答え 2 石斧	石斧は、木の伐採や木材の加工に使用される「磨製石器」の代表格です。この道具のおかげで、人々は効率的に木を切り出し、竪穴住居の骨組みを作ったり、丸木舟を作ったりすることができました。
問5	答え 2 大森貝塚	大森貝塚は、縄文時代の人々が長期間にわたって貝類を主食としていたことを示す場所です。ここで発見された土器の表面には、縄を転がしたような独特の模様が刻まれていました。モースはこの模様に注目し、このような特徴を持つ土器を使う時代を「縄文時代」と呼びました。
問6	答え 2 エドワード・モース	モースは動物学が専門でしたが、来日直後に乗車した列車の窓から大森貝塚の痕跡を見つけ、当時の日本政府の許可を得て発掘を行いました。彼は土器の紋様が縄のような形をしていることに注目し、そこからこの時代を「縄文時代」と呼ぶきっかけを作りました。
問7	答え 1 土器	土器の登場により、植物の灰汁（あく）抜きや、穀物や貝類を煮て食べることが可能になりました。縄文土器の表面に見られる縄目の模様は、縄を押し付けてつけたもので、これが「縄文時代」の名称の由来となりました。
問8	答え 2 縄文時代	縄文時代は、竪穴住居に定住し、狩猟や採集、漁労を行って食料を得る生活が長く続いた時代です。土器の表面に縄目のような模様がつく「縄文土器」が使われたことからこの名がつけられました。
問9	答え 3 貝塚	貝塚は、単なるゴミ捨て場ではなく、貝だけでなく魚の骨、動物の骨、石器、土器などがまとめて見つかります。これらを調べることで、縄文人がどのような環境で、どのような動物や植物を食べていたかを詳細に知ることができます。特に酸性の強い日本の土壌では骨などはすぐに消えてしましますが、貝殻のカルシウム成分が土を中和することで、当時の遺物が奇跡的に残ることがあります。
問10	答え 4 竪穴住居	竪穴住居は、地面を掘り下げることで冬は暖かく、夏は涼しいという気密性を備えた構造でした。中央には火をたく炉があり、調理や暖をとるために使われていました。家族や集団で暮らすための基本的な単位であり、複数の住居が集まることで集落が形成されました。
問11	答え 1 大森貝塚	大森貝塚は、現在の東京都品川区と大田区にまたがる場所に位置しています。モースはこの場所で発掘を行い、貝殻や土器などを丁寧に記録しました。これは日本で初めて、科学的な手法を用いて行われた発掘調査として歴史的に非常に重要な意味を持っています。
問12	答え 1 三内丸山遺跡	この遺跡からは、弓矢の破片だけでなく、巨大な掘立柱建物や大量の土器・石器が出土しました。栗の木を栽培していた可能性も指摘されており、人々の生活が採集から計画的な生産活動へ移行しつつあったことがわかります。
問13	答え 1 縄文土器	縄文土器は粘土を紐状にして積み上げ、野焼きによって作られた土器です。最大の特徴は、表面に縄を転がしたような模様があることで、この模様が名前の由来となっています。煮炊きに用いられたほか、貯蔵や運搬にも活用されました。
問14	答え 1 縄文土器	縄文土器は、粘土に砂などを混ぜて焼き上げた厚手の容器です。表面の「縄目」は、縄を転がしてつけた装飾ですが、滑り止めの効果もあったと考えられています。煮炊きができたことで、これまで食べられなかった堅い木の実や山菜も調理できるようになりました。
問15	答え 2 狩猟	狩猟は、弓矢の使用によって効率が飛躍的に上がりました。また、石鏃（せきぞく）と呼ばれる石製の矢じりを矢の先端につけることで、獲物を正確に仕留める技術が発達しました。獲物の皮は衣類になり、骨は道具になるなど、動物を余すところなく利用する知恵が縄文人にはありました。
問16	答え 4 骨角器	骨角器には、魚を突くための鈎、釣り針、さらには衣類の製作に使用する針や刺突具などが含まれます。石よりも加工しやすく、鋭利で細かな形状を作れることが大きな強みでした。